

えでぴあ

立川と語ろう 立川に生きよう

June 2023

Écoutez Bien Vol.39 No.459

6

オーベルジュときと、その気概

表紙／さんぽ道(曙町)



Let's GO DICE



一緒にがんばった!

総括 2022-2023

2022年10月から、立川を盛り上げる1人ひとりとなって
頑張ってくれたダイスメンバー。
ありがとう。そして来季は心機一転、
新しいメンバーと共にがんばりましょう。
最終回は2022-23ロスターのいろいろな表情をお届けします。



坂井耀平

森本泰雅

スコット・ブラクニー

トリステイン・ウォーリー

酒井達也

坂井レオ

尾形界龍

秋山皓太

元澤 誠

エモン・ドレ・リックマン

福田晃平

町井丈太

「文学」を捉える

環境を変えたい

作家たちを横断的に見る研究

中原中也の草稿がデジタル化されて一般公開された。他にも島尾敏雄や森田思軒などの自筆資料を公開している。

このことは、文学者たちがどんな風にことばを作ってきたかを明らかにすること。文学研究が変わってきている。

——そもそも国文研は明治以前の古典を扱うのではないですか。

多田 以前はいわゆる古典が中心だったのですが、近代も明治から数えて百五十年経っています。芥川龍之介が『今昔物語集』や『宇治拾遺物語』などを扱って作品を書いていた頃から百五十年前といったらもう江戸時代も半ばですよね。つまりもう芥川龍之介がすでに古典なんです。ですから「国文学」の範囲を拡大する必要があるので、近代文学も国文研の研究の中にこれから入っていくことになりました。

——確かに近代文学の方が親しみやすいですね。

多田 近代文学という文学をとらえる状況を変えたい。近代と言えば夏目漱石、森鷗外の名前が挙がりますが、もちろんすごい文学者ですし日本がもっと世界に発信していくべき文学者ではあるのですが、その人たちが文学をやっていたわけではない。むしろもっとたくさんの人たちを横断的に見ていくことでしかわからない隅外であったり、芥川たちの面白さが絶対あるのです。近代文学の中では何が好きですか。

た感覚が好きですね。—— 難しいですね。

多田 そうかも知れませんが、でも、「わかるもの」だと思いませんか？ 近代文学を見てしまうと、彼らの直面した、今では忘れられつつある問題が見えなくなってしまうのかもしれない。そういう、「あたりまえ」に見える事柄への疑いを持つて言葉に接する態度は、荷風に学びました。たとえば……。中原中也、覚えていますか？

—— ええ、わかります。先生、先日NHKのニュースで中原中也の草稿がデジタル化されて公開されたとお話をなさっていましたね。

多田 それです。中原中也の『別離』という詩の原稿を見ると、こんな風に番号を振ってどの聯をどういう順番にしようかなって迷っている。女の人に「さよなら、さよなら！」と書いているんですが、この迷っているところ、「故郷に帰っていく」ということをうたっている。「明日の今頃は故郷の土をば見ているのです」って。いったいどんな別れなのか。女の人に別れを告げて故郷へ帰るのだけれど、この女性はいくつまで生きてくれなかった、なのか、そうじゃないのか。抽象的な別れにするのかとか、いくつかの形のなかで迷っていることが草稿の中に見えます。しかし反対にいうと、迷っている言葉の幅は限定できるわけですね。中

—— 森鷗外でしょうか。

多田 鷗外の『舞姫』は戦後ずっと教科書に載っています。そういった作品が入った『美奈和集』というのがこの本です。これが初版、こちらが再版、改訂された『改訂美奈和集』、私は個人的にこれらを集めていて、縮刷本といって大正時代に文庫本の走りのようなものもありました。『舞姫』を何で読みましたかと聞くと、ほとんどの人は教科書です。でも『舞姫』はいろいろな形で流通したわけで、単行本もあれば教科書の副読本もある、文学全集だったりアンソロジーだったり。その一つのバージョンを我々は読んでいると考えると、何か見えてくるのではないかなと思っています。

—— 何が見えてくるのでしょうか。

多田 一つの文章とか文とかの周りには、それを取り巻いている本とか文章があつて、一つの作品は周囲の作品に支えられている、そんな風に日本文学をイメージすると、文章の捉え方が少し変わってくるんじゃないかと思っています。きっかけになったのは永井荷風の『雨瀟瀟』という作品です。筋としては大した事件も起こらない話なのですが、成ではないのですが、でも彼が迷った言葉の選択肢は、ある程度確定できるわけです。『別離』は未発表ですが、『汚れちまった悲しみに』だったら単行本になって文学全集に載つてということになり、その中で文章がどう揺れたのかということを確認すると、揺れ具合とかいうのか、一つの作品を作る時にどういう辞書が頭の中に浮かんでいたのかが見えてくる。『別離』は、最初は『さよなら』というタイトルでした。それを『別離』にする、つまり「さよなら」と「別離」の幅で考えている。客観的な「別離」なのか、人に言う「さよなら」なのか。一つの作品のなかの、ありえた言葉の幅がどのくらいあったかを見ると、結局なぜ「別離」を選んだのかがわかってくるし、同じ幅を共有している人はどのくらいいるのかとか、宮沢賢治の『銀河鉄道』にも印象的な箇所「さよなら」がでてきますが、賢治はどういう幅で考えているのか、どのくらい重なっていて、どういう詩人たちの「辞書」があったのかといったことが見えてきます。

—— なるほど。

多田 いわゆる「広辞苑」のような現実の辞書ではなく、文学辞書のようなものがたぶん詩人たちの意識のなかにあるんですよ。この本棚（共同研究室）にあるのは、そんな言葉の振れ幅がある程度実証的に測定していくための資料です。江戸時代末から荷風が亡くなった昭和三十四年くらいまでを私は見ているのですが、文例集です。

—— なんの文例ですか。

多田 明治時代はだれもが言葉を学び始めます。でもどう書いたらいいのかわからないので、たとえば手紙の文例集とかがたくさん出版される。郵便制度が発達し始める時ですから、手紙の文例集は山ほどあります。歴史関係の文例集、短歌、俳句、アンソロジーの作り方の本。近代詩、漢詩、こっちは唄の本。翻訳のやり方、演説の仕方、小説の作り方。こうしたものを見ると、なんととはなしにジャンルごとの規範のようなものが見えてきます。大正十年なら大正十年という時代の振れ幅に対して中原中也が、永井荷風がどう突っ込んでくるか、が見えてきます。

—— いわゆる文学研究とはちょっと違いますよね。

多田 ひとりの作家をひとりの研究者が研究する、それも文学研究の大事な形です。今からでも永井荷風について語れというなら、何時間でも語ります（笑）。島尾敏雄という作家がいますがご存じですか。

——『死の棘』は映画化されていますし、最近は流行っているような気がします。

多田 梯久美子さんが『狂う人』というすばらしい本を出されましたからね。これが『死の棘』の草稿です（データベースで原稿の画像を見せる）。島尾敏雄の原稿は何回も直しを入れているのですが、奥さんのミホさんや、弟子みたいな人と共同で「清書」している。こういう部分で悩んでいたとか書き直しの順番とか、個人研究ではそういうことをやるのですが、悩んでいる理由が個人の事情ではない場合も多いわけですね。島尾敏雄個人を見るだけでなく、では同じ時代の安岡章太郎はどうだったか、吉行淳之介は、三島由紀夫はって見ていく。今回の草稿アップロードは、その時代の作家たちを横断的に見るためのものなのです。まだ始まったばかりですが、継続的に公開を行う予定です。この草稿の研究と文例集の研究をくみあわせて共同研究を行っていて、面白いことがわかってきています。例えば正岡子規の漢詩は初学書に照らしてみるとどのくらいのレベルかとか。そうやって文章の分析を実証化していくことが、近代文学研究の近代化にとっては必要なことなのかと思っています。時代と地域で文学の形って全然違う。かつて名作と言われた基準も、SNS文化の現代の基準とは全然違う。今とはちがう「近代」の文化があったことを前提にして、同じ国でも各時代の標準みたいなものは探っていくようにしたいなというのが今やっていることです。研究者のためのインフラを作っていくことで、文学をとらえる環境を変えていきたいですね。

多田蔵人さん

国文学研究資料館 准教授、山形県出身。
「イザベラ パード、ご存じですか」と。イザベラ パードとは秘境探検家の英国人女性。「私の行っていた小学校の入口に『イザベラ パード記念碑』が立っている、今でも駅のない町で小学生時代を過ごしたことが原点です」と。中学・高校は神奈川県にある公文国際学園。秘境のような地域で育ったと言いながら、なんの、成績優秀で選ばれて神奈川県へ。寮生活を経て東京大学へ進学、日本語日本文学を博士課程まで修めた。卒業後、二年間国文学研究資料館で谷川恵一（当時）のもと研究員、その後鹿児島大学に就職。六年を経て二〇二二年四月より現職。今は立川が世界一好き、立川では好きになった地域をつなぐことができるから、とおっしゃる立川人。



多田蔵人さん

Auberge TOKITO

オーベルジュ ときと

「食」を楽しむ宿泊施設

中庭に面したホール席、幅広い用途に適した個室、
最大20名収容の離れがある「食房」。
4室の客室はすべて106㎡という「宿房」。
和のアフタヌーンティーが楽しめる「茶房」。
ゆったりと「とき」を楽しみたい。

かつてこの地にあった「無門庵」。全体としてその面影を残しながら、新しく開業したのが「Auberge TOKITO」。北口にあるSORANO HOTELを「陽」「動」とするなら、TOKITOは「陰」であり「静」。そうした対比を考慮に入れて、歴史や地域の人々の思い、関わりを引き継いで4月6日に開業した。

「無門庵」にあった庭木や石を再利用し、節気の旬を追うのではなく、瞬の美味しさを提供する宿泊施設を備えたレストラン——オーベルジュ。えくてびあんで開業の準備段階から取材を重ね、総合プロデューサー 石井義典総料理長の「Auberge TOKITO」にかかる強い思いや気概に触れて来た。自らに妥協を許さない。「無門庵」の土を混ぜ込んで器を焼く。立川であることを意識して釉薬にも凝った。試作を繰り返し、寒さの中も暑さの中も実直に土に向かい続けていた。その間に全国を回って美味しい食材を求める。単に美味しいではなく、例えば大きな魚を捕る時に一緒に網にかかったような小さい魚の命も尊く頂こうとする。作陶場に干してあったカジカから出汁をとるのだと説明してくれた。陶器が着々とでき上ってくる傍らで、木製の器を創る料理人がいた。「無門庵」にあった木々を利用しているのだという。まさに「TOKITO」は食を越えた職人の集まりなのだと実感した。

刺身に「うじお」がかかっていたら、それは「Auberge TOKITO」の料理。「TOKITO」でしか味わえない味。ここでしか味わえない味が、ここにはある。

宿房



地下1,300mから汲みだした温泉かけ流し露天風呂



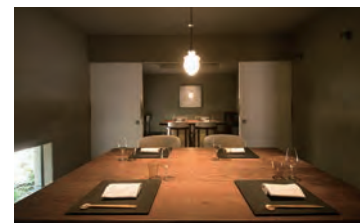
外の空気に触れることのできるテラス



1室2名まで 奥に見えているのがベッドルーム



食房



新鮮な鯛にかかっているジュレが「うじお」
器は石井総料理長作



宴会場にも使える離れ、ここにも「無門庵」の面影がある

茶房



春の「始まりのお茶」



壁の棚に並ぶ茶碗も石井総料理長の作品



「無門庵」にあった茶室をそのままに

えくてびあんの輪	
えくてびあんはリストのお店にあります。 今月は 富士見町・緑町・泉町・西砂町・一番町・上砂町 砂川町・柏町・幸町・若葉町・栄町 のお店です。	
富士見町	(株) 立川印刷所……………524-3268 日本交通立川 (株)……………528-2151 松栄寿司……………524-6958 ふじみ食堂……………523-4791 たましん 本店……………526-7700 GREEN SPRINGS info……………524-2222 Adam's Awesome Pie……………595-8375
緑町	国立国語研究所……………540-4300 国立極地研究所……………512-0652 南極・北極科学館……………512-0910 国文学研究資料館……………050-5533-2900 花みどり文化センター……………528-1751 昭和天皇記念館……………540-0429
泉町	インヴォラーレ・ルーデンス 立川ルーデンステニスクラブ 525-9677 blooming bloomy 5らぼーと立川立飛店 548-1215 海上保安庁海上保安試験研究センター 526-5630 Café はおもにい……………512-7810 大和ハウス工業 (株) 多摩支店 525-1821
西砂町	砂川庵 甚五郎……………531-6788
一番町	私立立川ひかり保育園……………531-1273
上砂町	B3+ギャラリーウェルメイド 538-7250 fresh shop スーパーはしもと 536-2331
砂川町	みのーれ立川……………538-7227 陶工房 己流庵……………537-6102 たましん 砂川支店……………535-4411 珈琲豆焙煎工房 まめ吉……………535-1070 BREAD & Sweets マニシェール 537-2202
柏町	山梨中央銀行 立川支店……………536-0871 株式会社 セレモア……………534-1111 超こってりーめん パワー軒 535-1665 H.works……………537-7763 ペーカリー リオンドール……………535-4882 (有) まつい測量……………534-4411 ピーコック 玉川上水店……………538-3861 菅家医院……………536-4602
幸町	いなげや 立川幸店……………537-1820 たましん 幸町支店……………535-5311 中国料理 SANFUJI……………536-3813 西武信用金庫 幸町支店……………537-3101 お米屋さん 大黒屋……………536-0851 松浦商事 株式会社……………535-6001 至誠キートスホーム……………538-2323 とんかつ・割烹 かつ亭……………535-4611 ドイツ製法ハム・ソーセージセーフ工房 535-5009 和洋菓子 たちばな……………537-0347 青梅信用金庫……………535-3411 BS タイヤショップ 佐藤商会 537-0912 在宅療養支援診療所 立川在宅クリニック 534-6964 古楽の小屋 ロバハウス……………536-7266
若葉町	スーパー ヤオコー……………538-1711 ありた整骨院……………534-1622 カフェ タイニーガーデン……………507-1346 カフェ・レストラン てくたく 536-5788
栄町	たましん 栄町支店……………536-9711 いなげや 立川栄町店……………523-7201 チーズ王国 本社……………513-4101 高橋酒店……………522-4479 彩食中華 須崎……………507-0981 寝具の石川……………524-1333

jorakugajo

真如苑提供番組「常楽我浄」

スカパー！：529ch

スカパー！で放送の常楽我浄は
スマホアプリ「スカパー！番組表」（無料）で視聴できます。

J:COM 多摩：11ch・111ch

放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

街の話題

TOPICS OF TACHIKAWA

愛称は「コトブキヤスタジアム」

4月17日、立川市庁舎市長応接室において、立川公園野球場のネーミングライツ協定締結式がありました。立川市は同野球場のネーミングライツスポンサーを株式会社壽屋に決定し、4月1日より「コトブキヤスタジアム (KOTOBUKIYA STADIUM)」として愛称の使用を開始しています。愛称使用期間は令和5年4月1日から令和8年3月31日までです。

株式会社壽屋 代表取締役社長 清水一行氏 (右) と
清水庄平立川市長



Aloha Hawaiian Festival

立飛グループ創立100周年記念事業の一環として、4月29日と30日、GREEN SPRINGSで『音楽を好きになる街へ Aloha Hawaiian Festival』が開催されました。両日11時にスタートしました。29日はふじようちえん年長さんのかわいいハワイアンダンスに始まり、20時から行われたファイヤーナイフダンスまで多くのお客様で賑わっていました。30日は少し怪しいお天気でしたが、それでも街区にはたくさんの人、人、人。高木ブーさんが出演された15時、雨なんてなんのその。多くの人が「アロハ!」の心で集っていました。高木ブーさん、3月8日に90歳になられたそうですが、すばらしいお声で、会場を魅了。さすがです！



初夏の日差しの中、大人も子ども也大賑わい



ふじようちえんのお友達



柴崎町「スワパール」の皆さん



夕暮れは夕暮れの美しさ



夜になってファイヤーナイフダンス



4月30日 高木ブーさんの演奏で

すずらん通りのフラメンコ

すずらん通りといえばフラメンコ。コロナ明け?の今年は350人強のセビジャーナス。5月2日と3日、「出前フラメンコ」や「ストリートフラメンコ」で陽気に盛り上がりました。錦町で生まれ育ったプロのフラメンコ舞踏家 堀江朋子さんも運営に携わっている「立川フラメンコ」。2004年に初めて車両通行止めにしてパレードをしてから20年。色とりどり、美しく華やかな、フラダンスとは異なる情熱的なダンスは見ても楽しいけれど、踊るともっと楽しいようです。



な、フラダンスとは異なる情熱的なダンスは見ても楽しいけれど、踊るともっと楽しいようです。

今号の裏表紙、昔の写真もすずらん通り。通りのずっと奥に保険会社の広告塔が見えています。32年前も今も脈うすずらん通りです。



堀川貴永さんの個展

立川の陶芸家 堀川貴永さんが、久ぶりに地元立川で個展を開催されます。場所はGREEN SPRINGSにあるSPM (SUPER PAPER MARKET) 内のギャラリースペース。SPMは立川から世界に発信している福永紙工さんの運営です。堀川さんらしい器をご覧くださいだけでなく、期間中の土日には堀川さんの作った土鍋で焼いたパンズも購入できるそうです。パンやお菓子は立川でパン教室カンナを開いている米山みはるさん。個展開催期間は、6月1日から29日までです。気持ちのいい季節ですから、ぜひ！



堀川貴永さん

青木 久 元市長、我が人生を語る

5月28日(日)、立川市女性総合センターアイムの第三学習室で、青木久元市長が講演されます。この日は青木元市長98歳のお誕生日。第14期から第18期まで5期にわたって市長を務めてこられました。街づくり50年、モノレール開通秘話など、1時間半たっぷりお話を聴かせてもらう会です。参加ご希望の方は下記あて、メールでお申し込みください。申込先 一般社団法人多摩楽友協会事務局 E-mail : t-gakuyu@din.or.jp 定員になり次第締め切ります

青木久元市長 (2019年撮影)



表紙

ネコ歩き (青梅線の線路)

猫、ねこ、ネコ。書き方でイメージが変わるこの生き物。歩き方が美しい。前足が踏んだ跡を間違いなく後ろ足で踏む。そして足跡は一本線。4本足なのに、なぜか歩いた跡は1つの線になっている。「線路なんて幅が広いんだから、目を閉じてたつて歩けるわ」と聞こえてきそう。さんぽ道はいろいろなコースがあるらしい。よそのお宅の庭だったり、塀の上だったり、もちろん道路も横切るし。でも、このコースはお気に入りだったのかな。よく出会った。ずっと線路の上を歩いて来て、踏切手前でフッとバラストの敷き詰められた道床に降りてしまう。そのまま草むらに入っていくって、いったいあの子はどこへ行くのだろう。また会えるかな、場所が線路なだけにいつも心配している。

かたこと

◆立夏を過ぎて季節は夏です。短い春に心身の準備が間に合わない、そんな方もいらっしゃるでしょう。夏に入ってから寒暖の差に、体調を崩すことなどありませんように◆地域貢献の会社になると決めた10年前のあの日から、立飛さんはブレずに開発を進めています。スポーツ振興の傍らで、西国立に高級宿泊施設を伴ったレストランを開業させて、もう次の開発拠点へ。2024年11月の創立100周年へ歩みは加速しています◆テレビやネット媒体に立川が登場する機会も増えました。「立川らしさ」って何だろうと思うことがあります。えくてびあんが関わってきた40年で、それを振り返る企画が、今号から始まった『あの頃の立川』。当時の記事は多摩でばこネットをご覧ください◆国文学研究資料館を連載するのは2016年に続いて今回が3度目。連載以外にも取材を通してお話をうかがった先生は40人以上。国語研究所や統計数理研究所、国立極地研究所の先生方など、たくさん専門家にお目にかかってきました。立川でなければこんな贅沢なインタビュー取材はできないでしょう◆海上保安試験研究センターも同じです。日本に1つしかない海の科捜研が立川にある。日本に唯一の機関が立川にあるって、ワクワクしませんか◆集う人が変わると街も変わっていきます。新しい立川の価値が生まれてきているのかもしれない。えくてびあんは立川で愚直に取材を続けます。

えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん ㊦

6月号 第39巻 通巻459号

令和5年6月1日発行
発行 有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL https://www.tamatebakonet.jp
発行人 黒須 環
企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
印刷 ダイオーミウラ株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。

あの頃の立川

創刊から40年——①

南口駅前



えくてびあんの写真から

1991年立川諏訪まつりの様子写真。駅舎は写真左側。チアリーダーが進む方向に、すでにマクドナルドはありました。蕎麦屋の奈美喜庵はいつも混んでいるという印象。奈美喜庵の奥に魚花の看板。威勢のいい魚屋さんでした。道をはさんだ左側にはコンフェクショナリーコトブキ、その奥に「おこじゅ」や「相国最中」の紀の国屋が見えています。現在は匠紀の国屋となって頑張っています。立川駅舎と一体となった「共同化ビル」事業がはいよいよ着工されていく頃。グランデュオ・サザン開業が1999年。多摩都市モノレールの立川北駅 - 多摩センター間の開業が2000年。1997年12月9日、柴崎町3丁目わかしお銀行所有の土地にあった樹齢100年のケヤキの大木を、駅前のシンボルツリーにするべく、交通を遮断して深夜の移植が行われました。今も初夏には美しい緑を枝に湛えています。

えくてびあんのテーマの1つは「人」。人がいて街は成り立つし発展します。1991年も多くの人と関わりました。世相を反映する漫画『パパの玉子焼き』が各学校に配布された年でもありました。最近、作者の梶山直美さんに再会できたのに、この漫画のことを聞き忘れしました。キッチンに立つパパが当たり前になった時代だからでしょうか。

(参考資料：「写真でみる立川の街づくり」立川市)

えくてびあんのバックナンバーは、多摩でばこネットにアップしてあります。『パパの玉子焼き』の記事は1991年7月号に掲載。